

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300396		
法人名	医療法人社団大塚会		
事業所名	グループホームからこ		
所在地	長崎県諫早市森山町唐比西1125-2		
自己評価作成日	令和6年11月2日	評価結果市町村受理日	令和7年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和6年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院と併設の為、医師や看護師等との連携がすぐに取りれるようになっている。その為、緊急時にはすぐに対応できるようになっているので、安心した生活が送れるようになっている。
 毎月数回は法人内外での研修に各職員参加し、意識・技術の向上に繋がっている。また、介護福祉士取得率も職員の半数以上を確保している。
 新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策としては、通常の感染対策はもとより病院(検査技師)より職員全員を対象とした防護服等の脱着訓練や感染時のゾーニングを計画済み。職員の健康管理においてもN-CHATの活用や県外者等との接触時においては報告及び入館前の抗原検査を徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の平均年齢が90歳を越え、介護支援と医療支援が必要とされている方が多い中、母体が医療法人であり、併設病院の医師、看護師との協力体制のもと、日頃の健康管理をはじめ、緊急時の対応にも安心して暮らせる取り組みがなされている。職員全員のスキルアップを重視し、年間研修計画に基づいた多様な研修・勉強会を積極的に実施している。これにより、職員は専門性を高め、組織全体の技術力向上に繋がっている。理念のもと、入居者本位の支援を徹底し、身体拘束に関しては、月例の研修・勉強会を実施し、職員全員がその概念の理解に努め、身体拘束や虐待行為を未然に防ぎ、入居者が安心して過ごせる環境を提供できるよう取り組んでいる。定年退職を控えたベテラン職員が多い中、2ヶ月前に若手職員が入社し、管理者は、若手職員のキャリアパスを考慮し、必要な資格取得に向けた支援や、先輩職員とのOJTを積極的に実施していることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに日々のケアを行えるよう、話し合いを行い共有できるようにしている。また、その時々細かいことなどは連絡ノートなどを利用し統一したサービスができるようにしている。	理念をもとに日々のケアを行えるよう、話し合いを行い共有できるようにしている。また、その時々細かいことなどは連絡ノートなどを利用し統一したサービスができるようにしている。	理念「やさしいほほえみ・やさしい手・やさしいまなざし」をいつでも再確認できるようにホーム玄関や、事務所内に掲示している。職員は日々の業務の中で入居者本位の支援を常に心掛け、リビングで過ごされている方には職員が笑顔で声掛けし、入居者のゆっくりとした行動に合わせて支援し、理念の実践に繋げている。職員間の共有としてメモ帳を利用し統一した支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい	コロナ禍以前は、法人のお祭りなどに地域の方にも参加して頂き、慰問や、中学校の職場体験なども積極的に受け入れていた。感染症対策を注意しながら地域限定の研修会などにも参加し慰問の受け入れ等も検討している。	コロナ禍以前は、法人のお祭りなどに地域の方にも参加して頂き、慰問や、中学校の職場体験なども積極的に受け入れていた。感染症対策を注意しながら地域限定の研修会などにも参加し慰問の受け入れ等も検討している。	コロナ禍前は地区の祭りに参加したり、中学生の職場体験等地域との交流にも取り組んでいたが、現在地域において感染症が増加傾向であり、感染対策に留意しながら活動している。今月(12月)初めには地元の中学校に缶のブルタブを寄付する等、地域の繋がりを継続されている。感染が落ち着いたら併設する有料老人ホームとの交流も再開し、三線の演奏イベントも予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症対策により、運営推進会議は書面にて内容を送付しアンケートを取っていた。アンケート内で、認知症などに関する質問があった時はその都度、電話・書面にてお答えするようにしている。またホームの見学に来られた方々などから相談や質問に助言などを行った。	感染症対策により、運営推進会議は書面にて内容を送付しアンケートを取っていた。アンケート内で、認知症などに関する質問があった時はその都度、電話・書面にてお答えするようにしている。またホームの見学に来られた方々などから相談や質問に助言などを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策により書面にて報告しアンケートを頂き、その中で日々の生活、サービス状況などの助言・指摘をいただきサービスの向上に活かしていたが、本年度より会議開催への準備段階としてzoom等を使用したハイブリッドで会議が開催できるように調整中。	感染症対策により書面にて報告しアンケートを頂き、その中で日々の生活、サービス状況などの助言・指摘をいただきサービスの向上に活かしていたが、本年度より会議開催への準備段階としてzoom等を使用したハイブリッドで会議が開催できるように調整中。	コロナ禍にて対面で運営推進会議の開催ができず、書面による実施のみであったが、今年9月より感染対策に留意して対面とオンライン形式で会議を開催している。会議がスムーズにできるよう各メンバーに事前に会議資料を郵送し、参加の有無、方法(オンライン参加)等、確認をとり実施している。前回の会議では通信障害があり上手くできず再度12月に開催されている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今までは書面上で運営推進会議へ市町村にも参加して頂き、意見を頂いている。介護保険の更新手続きなどにも市役所へ出向き行っている。	今までは書面上で運営推進会議へ市町村にも参加して頂き、意見を頂いている。介護保険の更新手続きなどにも市役所へ出向き行っている。	ズームによる運営推進会議にも行政から3名(諫早市介護保険課・南部包括支援センター・森山支所地域総務課)の方が参加され、ホームへの協力体制が窺える。運営推進会議では意見やアドバイスなどを得て日々の支援に反映されている。メンバーから研修会の情報提供や生活保護の方の支援にも協力頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠は行っていない。センサーの使用は個々の状態を十分に把握し検討し、主治医・家族に説明、同意をいただき毎月、見直しを行っている。	夜間以外の施錠は行っていない。センサーの使用は個々の状態を十分に把握し検討し、主治医・家族に説明、同意をいただき毎月、見直しを行っている。	身体拘束に関する指針を作成し、法人全体で取り組んでいる。全職員が毎月、身体拘束に関する研修会または勉強会に参加し、身体拘束の定義を深く理解するための取り組みを継続的に行っている。入居者の転倒防止対策として、センサーマットを導入し、その使用にあたっては、家族へ丁寧な説明と同意を得るようにしている。週に一度、職員が集まり、入居者の状況を共有し、転倒防止対策の改善について検討する会議を定期的に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修に参加している。また入浴・行為時にあざ等が無いかな身体チェックし、利用者と話するときも言葉かけに気を付けている。	法人内で研修に参加している。また入浴・行為時にあざ等が無いかな身体チェックし、利用者と話するときも言葉かけに気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などに参加し、スタッフミーティングや申し送り時に周知している。	研修会などに参加し、スタッフミーティングや申し送り時に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に詳しく説明を行い、疑問や質問を受けた時はその都度説明を行っている。	入居時に詳しく説明を行い、疑問や質問を受けた時はその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にその時々々の状態報告を行い、会話を持つよう努めている。また、意見箱の設置も行いその事は運営規定にも記載している。	面会時にその時々々の状態報告を行い、会話を持つよう努めている。また、意見箱の設置も行いその事は運営規定にも記載している。	職員が管理者にいつでもどんなことでも意見や要望が言える体制を整えている。入居の際に家族へ意見箱を玄関入り口に設置している旨を説明している。毎週水曜日には意見箱への投函状況を確認している。職員は日々の支援の中でコミュニケーションをとり、入居者の要望に努め、家族には面会時や日々の報告の際に意見要望を伺っている。職員はメモ帳で家族の意見を共有し、統一した支援に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内で各委員会を設け、その都度意見を聞き、話し合いを行っている。	ホーム内で各委員会を設け、その都度意見を聞き、話し合いを行っている。	以前は職員会議を開催していたが、現在は朝の申し送り時に意見交換をしている。女性職員が多く、長年勤務されているベテラン職員が多数在籍し、その経験と知識を活かし、最近入職された方には、「焦らずに丁寧に対応すること」など、介護支援に関するアドバイスをを行っている。職員共有のメモ帳を活かし意見の反映に取り、日々の介護に活かしている。ベテラン職員と新人の連携が密接で、入居者に温かいケアを提供している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と職員の話し合いの機会を設けている。資格を取得したいものに対しては全面的にサポートすることで向上心を持って働けるよう努めている。	代表者と職員の話し合いの機会を設けている。資格を取得したいものに対しては全面的にサポートすることで向上心を持って働けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会などがあると連絡したり、全職員の目に入る場所に掲示している。申し送りなどでも声掛け出来るだけ参加して貰えるよう声かけている。コロナ禍である為、法人外の研修は十分な感染症対策を行い参加するようにしている。	法人内の研修会などがあると連絡したり、全職員の目に入る場所に掲示している。申し送りなどでも声掛け出来るだけ参加して貰えるよう声かけている。コロナ禍である為、法人外の研修は十分な感染症対策を行い参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会に入っており、法人外の研修にも進んで参加している。	グループホームの連絡協議会に入っており、法人外の研修にも進んで参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人、ご家族、ケアマネジャーからの情報収集を充分に行い、全職員に周知し共有することで関係づくりに努めている。	事前にご本人、ご家族、ケアマネジャーからの情報収集を充分に行い、全職員に周知し共有することで関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを密に行い、不安や要望を聞き入れ、出来るだけそれに沿えるように努めている。	ご家族との話し合いを密に行い、不安や要望を聞き入れ、出来るだけそれに沿えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、御家族との話し合い、サービス計画書を作成し職員に周知させることで、支援している。また、施設等の説明も行っている。	ご本人、御家族との話し合い、サービス計画書を作成し職員に周知させることで、支援している。また、施設等の説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が持っている残存能力を十分に活し、出来る限り自宅での生活パターンが送れるように努めている。	ご本人が持っている残存能力を十分に活し、出来る限り自宅での生活パターンが送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話にて状況報告や、ご本人の思いを伝え連携できるよう努めている。	面会時や、電話にて状況報告や、ご本人の思いを伝え連携できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	感染症緩和により現状対面での面会は可能であるが、感染症の状況により窓越しとなる場合もある。またその方の状態を見ながらゆっくり過ごしていただけるよう、場所を提供したり、馴染みの場所へ出かけたりしている。	感染症緩和により現状対面での面会は可能であるが、感染症の状況により窓越しとなる場合もある。またその方の状態を見ながらゆっくり過ごしていただけるよう、場所を提供したり、馴染みの場所へ出かけたりしている。	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、時間制限付きで自室での対面面会を再開したが、その後、周辺地域において感染が再燃したため、改めて感染対策を強化している。入居者の平均年齢が90歳を超え、外出が困難な状況が続いているが、家族の協力のもと、本人の希望や要望(墓参りなど)の実現に向け、可能な範囲で対応している。以前は年賀状のやり取りなど、入居者の友人・知人とのコミュニケーションが行われていたが、現在は状況の変化により、その頻度が減少している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、関係を把握し孤立しないよう寄り添うよう努めている。	個々の性格、関係を把握し孤立しないよう寄り添うよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院等に入院された時も、お見舞いや相談等も行っている。	他の病院等に入院された時も、お見舞いや相談等も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々に生活の中での行動や会話の中から出来るだけ本人の思いをくみ取るように努めている。	日々に生活の中での行動や会話の中から出来るだけ本人の思いをくみ取るように努めている。	入居の際には、管理者とケアマネジャーが本人や家族と面談を行い、情報提供書や聞き取りを通して、その方の生活歴、健康状態、嗜好、希望などを詳しく把握するようにしている。意思疎通が困難な方には、表情、動作、声など、日々の状態を観察し、その方の思いや意図を汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントなどを通して情報収集を行い、スタッフ間で情報を共有し、把握する事でより良いケアが出来るよう努めている。	アセスメントなどを通して情報収集を行い、スタッフ間で情報を共有し、把握する事でより良いケアが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録やミーティング、申し送りなどを通じ現状の把握に努めている。	日々の介護記録やミーティング、申し送りなどを通じ現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望、主治医意見書などを踏まえ、スタッフで話し合い介護計画書を作成している。	本人、家族の要望、主治医意見書などを踏まえ、スタッフで話し合い介護計画書を作成している。	本人、家族の意向や要望を踏まえ、課題分析を行い、介護計画を作成している。目標に向けた支援を職員全員が共有し、統一したケアに向けて取り組んでいる。介護計画は本人、家族へ説明し同意を得ている。状態変化が認められた際には、家族に速やかに状況を報告し、今後の介護計画の見直しについて丁寧に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノートなどを利用しながらスタッフ全員が情報を把握し、その都度話し合い見直しを行っている。	介護記録、連絡ノートなどを利用しながらスタッフ全員が情報を把握し、その都度話し合い見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに応じて案を出し合い個々に合ったサービスの提供に取り組んでいる。	その時々々のニーズに応じて案を出し合い個々に合ったサービスの提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の利用、買い物援助又は代行、気分転換に個別の外出などを行っている。	移動図書館の利用、買い物援助又は代行、気分転換に個別の外出などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携をとっている医療機関はあるが、本人、家族の要望に添い個々にあった受診を行っている。	連携をとっている医療機関はあるが、本人、家族の要望に添い個々にあった受診を行っている。	医療法人が運営しているため、併設の病院との連携が密に行われており、入居時に可能な限りかかりつけ医を併設の病院に変更することをすすめている。専門医への受診が必要な場合は、職員が付き添って対応しているが、家族に付き添いを依頼することもある。併設病院の医師や看護師と連携し、入居者の日々の健康状態を把握し、緊急事態が発生した場合にも、迅速に対応できる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告・相談を密に行い、緊急時にもスムーズに受診できるようにしている。常勤で准看護師も勤務している。	報告・相談を密に行い、緊急時にもスムーズに受診できるようにしている。常勤で准看護師も勤務している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関とは情報交換を密に行い、その情報をスタッフ間で共有し、退院してきた時により良いケアが出来るよう努めている。	医療機関とは情報交換を密に行い、その情報をスタッフ間で共有し、退院してきた時により良いケアが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて主治医、ご家族、ホームスタッフとインフォームドコンセントを行い出来る限りの支援を行っている。また契約時に説明し同意書にも記載して頂いている。	状態に応じて主治医、ご家族、ホームスタッフとインフォームドコンセントを行い出来る限りの支援を行っている。また契約時に説明し同意書にも記載して頂いている。	入居時に重要事項説明書の中で重度化や終末期に向けたホームの指針について、分かりやすく説明している。併設の病院があり、入居者の状態に合わせて、適切な医療支援を受けることができ、本人、家族の意向に対応している。老衰により延命治療を希望されない方に対しては、穏やかに最期を迎えられるよう、看取りケアを実施している。看取りケアに関する職員の知識や技術向上のため、年間計画に基づいた研修を定期的実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会へ参加したり、併設の病院看護師などへ相談等を行い指導を受け実践力を身に付けている。応急手当普及員の資格を持っている者もいる。	研修会へ参加したり、併設の病院看護師などへ相談等を行い指導を受け実践力を身に付けている。応急手当普及員の資格を持っている者もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回以上を目標にし、定期的に避難訓練を行い、各職員消化方法も学んでいる。喫煙も敷地内禁煙となっている。	年に2回以上を目標にし、定期的に避難訓練を行い、各職員消化方法も学んでいる。喫煙も敷地内禁煙となっている。	法人を挙げて火災や災害などの緊急事態に備え、併設事業所と合同で年2回以上の避難訓練を実施している。各事業所に責任者を配置し、相互協力体制を構築している。消火器の設置場所を分かりやすく表示し迅速に対応できるよう準備している。自然災害や感染症発生時の事業継続計画(BCP)を作成している。	火災訓練だけでなく、様々な災害を想定した避難訓練を実施し、職員の対応力を高めることが望まれる。また、災害発生時には地域と相互に助け合う体制を構築することが重要であり、まずは地元消防団と顔の見える関係づくりを行い、定期的な情報交換や合同訓練の実施に繋げるなど有事の際に連携を図る取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声掛けを行うとともに、個々の人格を尊重したケアを行っている。	個々に合った声掛けを行うとともに、個々の人格を尊重したケアを行っている。	年間研修計画の中に、入居者様への接遇に関する研修を組み込み、職員の意識向上に努めている。職員は、日々の業務の中で入居者様への声掛けや対応に気を配り、丁寧なコミュニケーションを心がけている。入居者の居室に伺う際は、必ずノックをして許可を得るなど、プライバシーに配慮している。便りでは、入居者の顔写真にモザイクをかけたたり、写真掲載の同意を得るなど、個人情報の情報保護に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での表情や会話などから、思いをくみ取り自己決定できるよう支援している。	日々の生活の中での表情や会話などから、思いをくみ取り自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその時々ペースや状態に合わせて支援している。	個々のその時々ペースや状態に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを把握し、本人の意思を大切にしよう支援している。	好みを把握し、本人の意思を大切にしよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、状態にあった形態で提供している。状態に合わせて準備や片付けも行っている。	個々の好みを把握し、状態にあった形態で提供している。状態に合わせて準備や片付けも行っている。	毎月1日は、赤飯、茶碗蒸し、刺身など、特別メニューを提供し、入居者に楽しんでもらっている。正月のおせち料理やクリスマスディナーなど、季節感あふれる行事食を提供し、食事の楽しみを広げている。ミキサー食など、個々の嚥下状態に合わせた食事を提供し、栄養バランスの取れた食事を摂取できるように支援している。職員の公休日は、配食サービスを利用している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし、嚥下や咀嚼状態に合わせた食事を提供するようにしている。	食事量や水分量をチェックし、嚥下や咀嚼状態に合わせた食事を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、義歯は夜間洗浄剤を使用し消毒を行っている。	毎食後に口腔ケアを行い、義歯は夜間洗浄剤を使用し消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症状の進行によりリハビリパンツの使用率は上がってきているが、排泄チェック表を活用し、パターンを把握する事で日中は出来るだけトイレでの排泄を行うよう支援している。	認知症状の進行によりリハビリパンツの使用率は上がってきているが、排泄チェック表を活用し、パターンを把握する事で日中は出来るだけトイレでの排泄を行うよう支援している。	職員は一人ひとりの入居者の排泄パターンを記録した介護日誌を作成し、時間帯ごとの排泄傾向を把握している。介護日誌の内容に基づき、適切なタイミングでトイレへの誘導や声掛けを行い、排泄を促している。オムツの種類やサイズを入居者の状況に合わせて適切なものを使用することで経済的な負担軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便状態を把握している。また十分な水分摂取や適度な運動も支援し促している。	排泄チェック表を活用し、排便状態を把握している。また十分な水分摂取や適度な運動も支援し促している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴日は決めているが、その時々気分や状態に合わせて変更等行い楽しんでいただけるよう支援している。	一応入浴日は決めているが、その時々気分や状態に合わせて変更等行い楽しんでいただけるよう支援している。	一般浴(水曜、土曜)とリフト浴(月曜、火曜、木曜、金曜)の2種類を用意しており、入居者の身体状況に合わせて入浴方法を選択している。1回の入浴につき、6名までを目安に入浴を行っている。体調不良や受診などで、予定していた入浴日に入浴できない場合は、その方の状況に合わせて、別の日に入浴の機会を設けるなど、臨機応変に対応している。皮膚疾患を持つ方には、専用のシャンプーを使用するなど、その方に合ったケアを行っている。	特に冬場はヒートショックのリスクが高まることを踏まえ、脱衣所に温度計を設置し、脱衣所における室温を常に把握して適切な温度管理を行うことでヒートショック予防:や快適な入浴環境:の整備に繋げることを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホーム内の室温を調整し、本人の状態に合わせて臥床や離床を促し支援している。	ホーム内の室温を調整し、本人の状態に合わせて臥床や離床を促し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅管理指導にて薬剤師との報告、連絡を密に行い個々の状態把握に努めている。	居宅管理指導にて薬剤師との報告、連絡を密に行い個々の状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染症の状況を見ながら行事やドライブ、移動図書館などにて気分転換や楽しみを持っていただいている。	感染症の状況を見ながら行事やドライブ、移動図書館などにて気分転換や楽しみを持っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添えるように支援していきたいと考えているが、認知症状の重度化に伴いなかなか外出できていない。	希望に添えるように支援していきたいと考えているが、認知症状の重度化に伴いなかなか外出できていない。	入居者の平均年齢が90歳を超え、外出が難しくなっているのが現状である。病院受診時の外出支援を中心に、家族の協力も得ながら個々の要望に応じている。遠出が難しい状況でも、ホームの中庭で気分転換を図るなど、入居者が快適に過ごせるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	前年度まで小遣い程度の金額を預かり、出納帳を個々につけていたが、金銭的なトラブル防止の為、本年度より預り金を預かることを廃止し、必要時は利用料と合算し請求するようにしてる。	前年度まで小遣い程度の金額を預かり、出納帳を個々につけていたが、金銭的なトラブル防止の為、本年度より預り金を預かることを廃止し、必要時は利用料と合算し請求するようにしてる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添って電話できるよう支援している。希望により携帯電話の持ち込みも許可している。	希望に添って電話できるよう支援している。希望により携帯電話の持ち込みも許可している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調整、空気の入替えなど、その時々に応じて快適に過ごしていただけに心掛けています。また出来るだけ季節感を感じていただけるよう配慮している。	温度調整、空気の入替えなど、その時々に応じて快適に過ごしていただけに心掛けています。また出来るだけ季節感を感じていただけるよう配慮している。	共有のリビングは、温度管理や騒音対策など、快適な環境づくりに努めている。職員により見守りが行われ、安全な生活が確保されている。廊下は、車椅子での移動がスムーズに行えるよう、障害物もなく安全に配慮されている。入居者の居室ドアには季節の飾り付けが施され、現在はクリスマスリースが飾られており、心安らぐ空間を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:たちばな棟)	実践状況(ユニット名:ありあけ棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりと過ごしていただけるようソファ等を配置し環境整備にも工夫している。	ゆったりと過ごしていただけるようソファ等を配置し環境整備にも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族にお願いし、馴染みの家具などを持って来て頂き居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。昨年度、居室の壁紙を新調し居室内が明るくなった。また換気扇を設置した事により、匂いの解消に努めている。	入居時、家族にお願いし、馴染みの家具などを持って来て頂き居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。昨年度、居室の壁紙を新調し居室内が明るくなった。また換気扇を設置した事により、匂いの解消に努めている。	入居者一人ひとりの状態に合わせ、転倒防止センサーの設置や、筆筒の配置など、使いやすい環境づくりを通して、快適な暮らしをサポートしている。また、私物の持ち込みや壁紙の張り替え、換気扇の設置など、居室の環境整備に力を入れており、清潔で過ごしやすい居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	前面に手すりの設置あり、車いすでも使用できるトイレ、リフト欲も完備されている。	前面に手すりの設置あり、車いすでも使用できるトイレ、リフト欲も完備されている。		